

秋の自然を感じながら

作成日: 2024.11.26
対象児: 4歳児 きく組
作成者: 進藤葵月

ねらい: 自然物に触れ、自然に興味を持つ。
感覚や感触を楽しむ。



～振り返り～
11月になり、秋の自然物が多く見られる季節になりました。子ども達は休みの日に公園で拾ったどんぐりをたくさん持ってきてくれました。それらを使って製作をしました。

どんぐりの製作をする前に、まず導入として紅葉を製作しました。保育者が画用紙の用意をしていると子ども達は「先生！今日は何するの？」「この画用紙なんか卵みたいな形してる」と製作の予想大会が始まりました。お花紙で葉っぱを製作する際、「先生と同じように貼る！」「僕は青色をたくさん使う！！」「虹色にする！」と自分だけの紅葉を表現することができました。「先生見て見て！」と見せてくれ、「〇〇ちゃんカラフルでいいね」と伝えるととても嬉しそうな表情を見せてくれました。

次に子ども達が持ってきてくれたどんぐりを使って「どんぐりのぼうし」を作りました。どんぐりに絵の具を付けて転がす子どもやポンポンする子どもがいました。どんぐりを選ぶ際にも、「見て。どんぐりに穴があいているよ」「このどんぐり大きい！」とどんぐりを選ぶ時も子ども達は大興奮していました。一人の子どもが「先生！このどんぐり振ったら音がするよ！」と音を聴かせてくれました。すると他に子ども達も振って音を聴く姿がありました。また、絵の具に触れた時「うわー！冷たい！」「なんかネチャネチャする」「赤色と黄色混ざっちゃった」と絵の具の触感にも触れ、手に絵の具が付いたことを保育者に「ほら！」と見せる姿がありました。他の子ども達も「がおー！」や「見てー！！」と全力で手を開けて見せてくれました。

これからも身近なものに触れたりそれを製作に取り入れたりしながら子ども達の創造力を育んでいきたいです。
(自立心、思考力の芽生え、自然とのかかわり・生命尊重、豊かな感性と表現)